

保育者間支援の限界と他職種連携

国際文化研究科 国際文化専攻
臨床心理学研究分野 博士前期課程
2024年3月修了

有田愛華

主査 三國牧子 副査 藤吉晴美 命婦恭子

研究背景

今日の保育現場で人材確保は喫緊の課題である。主に職場の人間関係を理由とする新卒保育者の離職が特に問題視され、業務上の困り感にも影響していると考えられる。新卒保育者と現場との認識の相違も早期離職に影響していることが予測され、ベテラン保育者は対人スキルの世代間差などから新卒対応で不満や難しさを感じている。保育者への心理的ケアの必要性が指摘される半面、心理職との協働は児童を支援対象としたコンサルテーションが主である。

研究目的

保育者自身が持つ心理的支援に関する潜在的なニーズは明らかになっておらず、新卒保育者の離職予防に対し心理職は十分に関わっていないと考えられる。そこで本研究では、ベテラン保育者が新卒保育者との関わりの中で感じる困り感から、ベテラン保育者に対して心理職ができる援助を明確にすることを目的とした。本研究では、ベテラン保育者を保育経験10年以上の主任や園長、新卒保育者を経験年数3年以内の保育者と定義した。

研究概要

保育経験10年以上の園長もしくは主任8名を対象として半構造化インタビューをし、発言データをKJ法に準ずる方法で分析を行った。

ベテラン保育者による新卒保育者への関わりと困り感は【経験差による影響】【ベテランの考え】【現実的背景】【保育者としての価値観】【日常的な関わり】【悩み】から構成されていることがわかった。ベテラン保育者は新卒保育者にコミュニケーションの苦手さ、消極的な行動、精神的な敏感さ、フレッシュさという特徴があると捉えており、成熟、困り感の解決を目的とした関わりを行い、新卒保育者の特徴や個別性に合う支援を新卒時代の経験則を基に実施していた。一方、自身の新卒時代との違いから関わりに苦慮、不安や困惑、新卒保育者に対し不満を抱いていた。

成果・まとめ

以上から、新卒保育者とベテラン保育者に対し橋渡しとして関係調整をする必要が示唆され、環境づくりに関する研修会、ベテラン保育者へのコンサルテーション、ベテラン保育者へのねぎらいの3点が提案された。本研究では対象を限定したため、実際の園に存在する困り感やニーズと異なる可能性があり今回提案した支援の効果検証のための追加調査や検討が今後の課題である。



指導教員コメント

本研究は、ベテラン保育者から話を聞き、保育者が持つ新卒保育者への悩みを明確にしたとともに、ベテラン保育者が自身の新卒時代を思い出し、支援する気持ちで新卒保育者に接していることも明確になった。また新卒保育者から学ぶこともあるというベテランから新卒保育者へだけでなく、新卒保育者もベテランに伝えることを持っていることが示唆された。このような保育者間の相互理解や相互配慮を分析・検討しようと試みた点について独創性を認めることができる。